

烏ヶ山・キリン峠山スキー、大山稜線縦走

～悪天はパウダースノーの素～

【報告者】田中政隆、今村、長尾恵

【日時】2008年2月9日(土)～11日(月)

【参加者】一木、田中政隆、長尾恵、今村、武内

コースタイム あるいは ルート名

8日(金)福岡 21:00 鏡ガ成スキー場駐車場 3:00

9日(土)鏡ガ成スキー場 9:00 象山 新小屋峠 11:00 烏ヶ山への稜線 12:00 新小屋峠 象山 鏡ガ成スキー場 14:20 米子市内

10日(日)奥大山スキー場駐車場 8:45 キリン峠 11:00(滑走) 振子沢出会 12:50 振子沢偵察 13:00(滑走) 鳥越峠からの沢出会 鳥越峠 14:20(滑走) 駐車場 15:40

11日(月)下山駐車場 5:30 夏山登山道 頂上小屋 8:10 弥山 8:30 剣ヶ峰 10:10 天狗ヶ峰 上宝珠越分岐(ユートピア小屋手前尾根) 11:00 元谷 大神山神社 駐車場 14:00

報 告

9日(土)天気:雪と大風、報告者:田中

私は、1月に行けなかったのが、今シーズンの初の山スキーで、気分はワクワクで楽しみ。8日(金)の21時に天神を出発。長尾さんを古賀SAでピックアップする。長い大山への道だけど、4名で運転なので、楽かな。最近、仕事で睡眠不足なので、早めに運転するがそれでも少し眠くなった。新見ICで降りて、約1時間30分くらいで、鏡ガ成スキー場に到着。昨年と違い、かなり雪が多い。明日が楽しみで駐車場にテントを張り、すぐに寝る。朝、7時に起きるけど、スキー場の除雪をしているおじさんに怒られる。「ここは一日でテントが埋もれるくらい降るので危ないし、除雪の邪魔だし」など長々と怒られてしまった。はいはいというしかなかった。すぐに片付けるように言われたが、朝食を食べ、休暇村の駐車場に移動。烏ヶ山は雲の中で、目の前の象山は見え、なかなか良い斜面なので、スキー場を通過して象山に登る。最初は私が先頭で登る。約3,40分で尾根に到達。そこから尾根沿いに10分くらいで山頂に。少し寒いくらいで大したことはない。気が付くとブーツは歩行モードでなく、ス

キーモードで登っていた。山頂でシールを外し、ここから尾根沿いに新小屋峠に向けて滑る。斜度はそれほどないのだけれど、初すべりと少し重い新雪で腰が引けており、全然滑れずに新小屋峠の少し前の鞍部に着く。シールを付けて、少し登って新小屋峠に。武内さん先頭で、ブナ林の中をなだらかな快適な登りを進む。先行者が居るようで、そのトレースの後を進んで行くが、少し楽だ。雪も十分で藪も出ていない。途中から急登になりジグザグに登り、何なくピークに到着。カーラ谷の少し東に出ているようでカーラ谷が見えない。それにガスのなかで尾根など見えず、天気が少し悪い。それで、今来た尾根沿いを下ることに。木が多いけど、雪が多く、良い。やはり、カーラ谷の方が良いかな。木々を避けながら、滑るがそんなに快適ではない。新小屋峠まで戻り、再度、象山に登る。あの気持ちよさそうな斜面を滑りたいと。ただ、風が猛烈に強くなり、登っていても時々風が止まるまで立ち止まる。顔が凍りそうだ。我慢しながら、やっとの重いで尾根の上に登る。ここでシールを外し、スキー場の方へ、滑る。尾根沿いなので、雪が飛ばされていて少し硬かったので、そんなに快適ではなかった。それよりもやっと風から逃げられたので、安心。

車で米子市内に行き、テント場を求めてうろちよろする。30分くらいさまよって、お城の中の野球場の近くにテント場を決めて、皆生温泉で温まる。テント場から歩いて飲み屋を探しに。すると近くに居酒屋があり、メニューを見ると比較的安いし、おいしそうなので、ここに入る。相席のテーブルしか空いていなかったが、価格も味も良く、ゆっくりと楽しんだ。価格も十徳やより安かったのでびっくり。お客も一杯だ。外に出るとなんと雨が降っている。テント場は、お城の門の下で雨が避けれて、最高だった。次回もここがいいかも。

10日(日)天気：雪、報告者：今村

仕事により2日目からの参加となり、高速バスで米子まで一人旅。早朝、駅に到着し合流する。前日は強風のため、象山ですら大変だったとの話を聞き、今日は大丈夫かなと心配になる。道すがら大山はまったく見えず、視界も悪そうな感じ。奥大山スキー場に車を駐車し、雪が降るなか準備を進める。前回はスキーを新調していたにも関わらず、シールは以前の物を使ったためシール歩行に苦労したが、今回はシールも新調した。しかも後ろ部分もフックで固定できるため、装着も以前の半分くらいの時間ですんだ。新しいギアはやはり素晴らしい。それぞれ準備を整え林道に入る。本日の予定は鳥越峠からキリン峠へ登った後、駒鳥小屋へ滑っていくコース。登山道入り口までの林道はなだらかな登り坂で、順調に入り口まで到着。ここで単独行のスキーヤーに追い抜かれる。一人で山スキーとは、自分にはとてもできません。登山道に入るが、雪のためあまり道がはっきりしなかったが、途中から先行者のラッセル跡に合

流したため、楽に高度を稼ぐことができた。しかしこれがちょっとした誤算で、当初鳥越峠に向かうつもりが、直接キリン峠へ向かってしまっていた。途中、コンパスで確認しながらだったが、あまり当てにならなかったようだ。武内部長は何となく気付いていたようだったが・・・。キリン峠までの尾根はなかなかの急登で苦勞する。何とかキリン峠に到着したが、天候は回復せず。ここでシールを外すよう指示が出る。ようやくお楽しみの滑りだ。出だしは急な細い尾根状部分を滑らねばならず少し怖い。武内部長は相変わらずの軽やかな滑り、と思いきや雪にスキーを取られることしばしば。田中さんもやはり思うようにいかず結構こけている。一木さんは相変わらずの堅調な滑りで降りており、新人の長尾めさんはビビりながらも何とかついてくる。自分とはいうと、気持ちだけが先に行くが技術がついてこず・・・。去年3月にほぼ同じ場所を滑った時は雪がなく滑るのにも苦勞したが、今回はフカフカの雪を楽しめた。こんなに長い距離を滑るのは久しぶり。谷筋まで1時間程度で滑り降り、休憩場所に決めていた駒鳥小屋を探すが結局見つからず。そのまま振子沢を偵察がてら途中まで登っていくが、場所も大体確認できたため途中で引き返す。そのまま同じ道を引き返し、滑り降りた所から鳥越峠までのキツイ急登をシールで登るが、深雪のためターンを返すのが非常に大変であった。鳥越峠からは登山道入り口までガラガラと滑るだけであったが、途中違う沢筋に入ってしまう引き返す羽目になったりと結構な運動になってしまった。山スキー終了後はいつものように大山スキー場のビジターセンターで濡れ物を乾かし、駐車場でテント泊。次の日の大山稜線縦走に備えて早めに就寝した。

11日(月) 天気：晴れ、報告者：長尾恵

9日・10日の山スキーに引き続き、3月予定の大山山スキーのための下見を兼ねて大山縦走を試みることになり、先月悪天候のため縦走を断念したことを思い出し、再チャレンジ出来るという期待で少々興奮気味の私。

この二日間の山スキーではあまり天候もよくなかったし、そう言えばいつもガスっていて大山がどんな形をしているのか実物を見たことが無い。それほど、冬の大山でいい天気に恵まれることは珍しいのか・・・前日にピナクルの別パーティーが縦走できず下山したことを耳にしていた、姿が見えなかった大山が徐々に裾の方からガスがはれ、見え出した時には『これは・・・行ける』とみんな思ったに違いない。

今回食担の武内部長の『豚肉白菜鍋』を美味しくいただき、5人でひしめき合いながら、翌朝3時起床のため就寝。

寝坊することなくみんな起き、気になってすぐに空を見る。星出てる、おそらく天気はいいはず。

朝食をすませ準備し、ヘッドランプを付けて5時半駐車場出発。

歩行機能が付いているとはいえ、スキー靴で登る武内部長・一木さん・今村さんタクマシすぎる。途中アイゼンを装着し、夏道を登る。

まもなく日の出だ、次第に山の輪郭がはっきりとしてくる。振り返れば米子市内のネオンも消え、日本海が一望できる。もうヘッドランプは必要ない。朝日が差し、北壁に出来た陰影がさらに威圧感を増して見せる、田中さんは写真を撮りまくり『キレイだなあ』を連発。

8時過ぎに、頂上到着。軽く行動食を摂り、ハーネスを付け、5人コンテでつながり弥山尾根に立つ。まだ誰も尾根には入っていない、うれしげにトップの武内部長がラッセル開始。そんなに雪は深くないが、晴れて視界がよすぎて恐怖を感じる。尾根の南側に雪庇がせり出しているの、極力北側斜面を歩くが傾斜がきつくて歩きづらいつころもある。

と、『ドーン』と地鳴りのするような音とともに大きな雪庇が落ちた。その距離わずか30cm。『コワーッ』北側斜面を通っていたにもかかわらず・・・そんなに簡単に落ちちゃうの？ 振り返ると山頂までの登山者たちがこっちを見ている。今の音のせい？ 『もっと北側を通らなくては』と思いながら先へ進む。“らくだの背”はスタンディングアックスで確保し、みんな無事通過。

そしてまた、ちっちゃな『ドーン』で、部長は滑落の危機。持ち前の運動神経で踏みとどまったが、2番手の私は一緒に引きずり込まれるかとハラハラでした。

剣ヶ峰に立ち、周りを見渡した時はさっきまでの恐怖も吹き飛び、景色のすばらしさにただただ感動するばかりでした。天狗ヶ峰にたどり着いた時はなんだか『ホッ』、ここからは尾根も太く下りが続く。

次回の山スキーのコースとなるだろう振り子沢の様子をみて、ユートピア小屋の手前で上宝珠の方へ尻セードで下りる。もっとラッセルが大変なのかと思っていたけれど、意外に雪が締まっていたし、元谷の方はトレースがあったので、フカフカ雪をラッセルする経験は出来ませんでした。なかなか冬の大山縦走は経験できるものじゃないと思っていたので、ラッキーで貴重な経験が出来たことがなによりうれしかったです。